

平成29年度 大田区立馬込第三小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

- ・20学級670名の児童数で特別支援教室拠点校である。学区内には7町会あり、学校に対して非常に協力的で地域力が高い。
- ・PTA活動、お父さんの会、同窓会活動が非常に盛んで児童の健全育成に進んで関わっている。
- ・「互いのよさを認め合い、共に高め合う児童の育成」をテーマに「考える道徳・議論する道徳」授業に取り組んでいる。
- ・体力向上モデル校として「運動大好き馬三の子」を目指して、「馬三元気アップタイム」「にぎにぎウイーク」等体力向上に努めている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄
						コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	<p>学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。</p> <p>算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。</p> <p>学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。</p> <p>外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。</p> <p>授業改善推進プランを、授業に生かす。</p> <p>東京ベーシックドリル(算数)を活用し、基礎基本の定着を図る。</p>	<p>4:保護者アンケートで「学校は学習内容を身に付けさせている」の項目で肯定的な回答が80%以上であった。</p> <p>3:保護者アンケートで「学校は学習内容を身に付けさせている」の項目で肯定的な回答が70%以上であった。</p> <p>2:保護者アンケートで「学校は学習内容を身に付けさせている」の項目で肯定的な回答が60%以上であった。</p> <p>1:保護者アンケートで「学校は学習内容を身に付けさせている」の項目で肯定的な回答が60%未満であった。</p>	4	<p>○保護者アンケートで「学校は学習内容を身に付けさせている」の項目で95.5%の肯定的な回答を得られた。特に算数では、ステップ学習や、東京ベーシックドリルを活用したり、水曜教室や土曜補習を活用したりして学習内容の定着を図ってきた。今後も児童の学習意欲を高めるため、体験的な活動や話し合い活動(はなちゃんタイム)を効果的に取り入れていく。</p>	<p>○アンケートの提出率も高く、また「教育について」の回答は非常に高く大変評価できる。引き続き現在の取組をお願いしたい。</p>
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	<p>小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。</p> <p>道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。</p> <p>学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。</p> <p>学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。</p> <p>問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。</p> <p>道徳授業やその他の教科でも「はなちゃんタイム」(話し合い活動)を通して自他の考えを尊重し合う態度を育てる。</p>	<p>4:児童へのアンケートで「友達が好き」と答えた児童の割合が90%以上であった。</p> <p>3:児童へのアンケートで「友達が好き」と答えた児童の割合が85%以上であった。</p> <p>2:児童へのアンケートで「友達が好き」と答えた児童の割合が80%以上であった。</p> <p>1:児童へのアンケートで「友達が好き」と答えた児童の割合が80%未満であった。</p>	4	<p>○「友達が好き」と答えた児童は97%であった。「自分のよいところ」をなかなか見つけられない児童もいる。友達のよいところを見付け合う活動や、話し合い活動などを通してお互いを認め合う活動を今後も続ける。また、学校生活調査やいじめアンケートを活用し、一人一人の児童が健全な自己肯定感を育めるように努めていく。</p>	<p>○「はなちゃんタイム」において他者への思いを培う学習を初等教育のカリキュラムの中で力を入れていくことは大変評価できる。</p> <p>○たとえ軽度であっても子どものことに関わることはより積極的に開示を望みます。</p>
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	<p>新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。</p> <p>「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。</p> <p>給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。</p> <p>体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。</p> <p>児童の健康・体力向上に向けての取り組みを組織的に行う。</p>	<p>4:児童へのアンケートで「運動が好き」と答えた児童の割合が90%以上であった。</p> <p>3:児童へのアンケートで「運動が好き」と答えた児童の割合が85%以上であった。</p> <p>2:児童へのアンケートで「運動が好き」と答えた児童の割合が80%以上であった。</p> <p>1:児童へのアンケートで「運動が好き」と答えた児童の割合が80%未満であった。</p>	4	<p>○「運動が好き」と答えた児童は92%であった。体力テストの目標数値を設定したことで、児童は目標をもって取り組めた。昨年度の体力テストの結果を基に課題である握力について「にぎにぎウイーク」を設定し、握力強化に取り組んだ結果、高学年は握力の上昇に繋がった。来年度は授業時間内での取組も考えて、児童の一層の体力向上を図る。</p>	<p>○体力テストの結果を受けて「にぎにぎウイーク」を設定するなどエビデンスに基づく取組は大変評価できる。</p>
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	<p>授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。</p> <p>授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。</p> <p>各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。</p> <p>学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。</p> <p>校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。</p> <p>ユニバーサルデザインの視点で教室環境を整える。</p>	<p>4:学校評価の保護者アンケートで「学校は一人一人のことを考え、一生懸命指導している」と肯定的な回答が昨年より5%以上増えた。</p> <p>3:学校評価の保護者アンケートで「学校は一人一人のことを考え、一生懸命指導している」と肯定的な回答が昨年より増えた。</p> <p>2:学校評価の保護者アンケートで「学校は一人一人のことを考え、一生懸命指導している」と肯定的な回答が昨年と同じであった。</p> <p>1:学校評価の保護者アンケートで「学校は一人一人のことを考え、一生懸命指導している」と肯定的な回答が昨年より減った。</p>	4	<p>○保護者アンケートの結果肯定的な回答は、昨年の80.5%から87.9%に増えた。現状に満足せず、個人が研修したことを組織に活かしたり、先輩教員が効果的なOJTを充実させ、授業改善をさらに進めていく。また、一人一人の児童がもてる能力を最大限発揮できるようにユニバーサルデザインの環境を整え、特別支援教育のさらなる充実を図っていく。</p>	<p>○発達障害など近年の研究成果をユニバーサルデザインの環境など現場の実践に活かしていく姿勢は大変評価できる。</p> <p>○教員の方々の勤務環境改善に継続的な取り組みをお願いしたい。</p>
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。	<p>教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。</p> <p>地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。</p> <p>学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。</p> <p>家庭学習の習慣が身に付くように、家庭への啓発を行う。</p>	<p>4:学校評価の保護者アンケートで「自分は学校の教育活動に協力している」に肯定的な回答が昨年より5%以上増えた。</p> <p>3:学校評価の保護者アンケートで「自分は学校の教育活動に協力している」に肯定的な回答が昨年より増えた。</p> <p>2:学校評価の保護者アンケートで「自分は学校の教育活動に協力している」に肯定的な回答が昨年と同じであった。</p> <p>1:学校評価の保護者アンケートで「自分は学校の教育活動に協力している」に肯定的な回答が昨年より減った。</p>	4	<p>○保護者アンケートの結果、肯定的な回答が昨年の71.1%から80.9%に増えた。今年度はHPでの情報発信に力を入れた。今後も学校の教育活動を積極的に発信していくことで家庭・地域の協力を得て、さらによりよい教育活動につなげていく。</p>	<p>○連絡帳を通じて日々家庭学習や翌日の持ち物を確認でき、音読を聞いたり、親子のコミュニケーションを深めたりする契機になっている。</p>